

公開シンポジウム「原子力発電の社会的普及プロセスの歴史的検討」

1. 主 催 日本学術会議史学委員会、史学委員会科学・技術の歴史的理論的社会的検討分科会
2. 共 催 日本科学史学会
3. 日 時 2013年5月26日（日） 14:10~16:40
4. 場 所 日本大学商学部3号館2階講堂（小田急線祖師谷大蔵下車）

5. 開催趣旨

3.11 フクシマ後の原子力発電は、再生可能エネルギーの現実性と並んで、日本のエネルギー需給問題、またその安全性をめぐって現在の焦点となっている。

本シンポジウム企画は、こうした状況にかんがみて、改めて原子力や放射能に対する社会の受けとめ方、日本に導入されたその発電システムの技術的レベルでの諸問題の考察、さらにはこれに携わった科学者・技術者の原子力への対応など、これらの点に関してこれまでたどってきた普及プロセスの歴史を科学史・技術的に検証することにある。

そして、その歴史的検証から今日学ぶべきこと、あるいは課題となっていることなどを読み取り、フロアーの意見を聴取し、日本社会が今後とり行く道を見定める機会とすることを目的としている。

6. 次 第

開会挨拶

司 会 兵藤友博*（日本学術会議第一部会員、立命館大学経営学部教授）

シンポジスト

- ・「戦前から戦後にかけての原子力の社会的受けとめられ方」
佐野正博*（日本学術会議連携会員、明治大学経営学部教授）
- ・原子力に関わってのこれまでの放射能の生体への影響」
横田陽子（立命館大学生存学研究センター客員研究員）
- ・「日本に導入された原子力（原発）システムの技術的レベルでの考察」
田中三彦（元原子炉設計技術者、サイエンスライター）
- ・「原子力をめぐる科学者の二重性をめぐって」
木本忠昭*（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授）

閉会挨拶：日本科学史学会会長

一般公開 無料／事前申込み不要

問い合わせ先：立命館大学経営学部兵藤研究室 hyodot@ba.ritsumei.ac.jp